

ZOOM  
UP

# 世界に展開 — JETAA ネットワーク —

JET プログラム経験者たちが世界各国で組織する JETAA は、JET プログラムの運営を海外からサポートするとともに、今後の同プログラム拡大の推進力となる存在である。本特集では、2016 年の同プログラム 30 周年に先立ち、各国の JETAA の活動とその魅力を存分にお伝えしたい。

(一財) 自治体国際化協会ニューヨーク事務所

1

## JETAA の歴史と、彼らとともに歩んだ 16 年

(一財) 自治体国際化協会ニューヨーク事務所 上級調査員 Matthew Gillam (マシュー・ギラム)

### JETAA とは

皆さんは、JETAA (JET Alumni Association) という組織をご存知だろうか。日本ではあまり馴染みのない存在かもしれないが、JETAA とは、JET プログラム (語学指導等を行う外国青年招致事業) を終了した JET 経験者たちが、世界各地で自発的に形成した同窓会組織のことである。現在、日本も含めた 15 の国と地域で活動しており、その支部数は 52 支部、会員数は 26,000 人以上にのぼる。

JETAA の各支部では、在外公館と連携して、大学などでの JET プログラムの広報宣伝、応募者への面接といったリクルート活動から、新規の JET プログラム参加者への出発前研修、そして新たに帰国した JET 経験者へのキャリア支援を含めた事後フォローにも従事している。ある調査によると、JET プログラムに応募する人の約 6 割以上が、JET 経験者からの口コミを通じて、プログラムの存在を知ったと回答している。彼らは、JET プログラムの運営を海外から支える貴重な存在であり、今や彼らなくして、優秀な参加者を日本に送り込むことは不可能であるといっても過言ではない。

また、JETAA の各支部では、それぞれの創意工夫の下、日本文化を通じた交流イベント、日本語や日本の伝

統文化に関する勉強会などを開催している。彼らは、世界各地で日本の宣伝役を買って出てくれた「草の根大使 (Grassroots Ambassadors)」であり、日本と世界の交流の架け橋である。

### ともに歩んだ 16 年

筆者が、ニューヨーク事務所の現地調査員として、JETAA 関連の業務を担当するようになったのは、1999 年のことである。筆者自身は JET 経験者ではないものの、大阪において 9 年間、英会話教師を務めた経験があり、JET 参加者が日本で体験したであろう喜びあり、苦労ありのかけがえのない日々や、母国に帰国した後に直面する逆カルチャーショックや就職難といった課題についても、多少は理解しているつもりであった。

このため、北米の JETAA の活動を支援するという職務は、とてもやりがいのある仕事だと感じていたが、まさか、その後 16 年にわたり、彼らとともに歩むことになろうとは、想像すらしていなかった。最近、JETAA のメンバーから、JETAA の「Living History (生きた歴史)」と呼ばれることがあるが、そのような形で JETAA の役に立つことは、大変光栄なことである。

## 一日にしてならず

「ローマは一日してならず (Rome was not built in a day)」という格言と同様に、現在の JETAA の姿も、25 年以上にわたる関係者の絶え間ない努力の積み重ねによって、形成されたものである。

JETAA は、1987 年の JET プログラム発足から 2 年後の 1989 年に設立された。その当時、AJET (JET プログラム参加者の会) により JET プログラムの任期を更新せずに帰国する参加者のための事業が検討された際に、AJET 千葉県代表スコット・オリンガー氏により JETAA 設立が提唱された。そして、1989 年 4 月に京都で開催された「契約更新者会議」において、JETAA の設立が決定され、同年 10 月 1 日付けで JETAA の規約が制定された。

同規約には、全世界に設置する 37 の JETAA 支部のリストが盛り込まれた。しかし、実際には、ほとんどの JETAA 支部は、各都市において JET 経験者が徐々にグループを形成して自発的に活動を始めたことにより、自然発生的に創設されたものと考えられる。

## 世界に広がる JETAA ネットワーク

JETAA の活動が徐々に広がる中、1995 年には、当事務所の呼びかけにより、アメリカとカナダの各支部が参加する初の「国際会議」が、ニューヨークで開催された。この形式の「国際会議」は、1999 年のロサンゼルス会議まで続いた。同会議では、世界各国の JETAA の集合体である JETAA インターナショナルの規約が制定されるとともに、北米中心ではない、真の意味での国際会議を開催すべきだという機運が醸成された。

そして、2000 年には、全世界から 13 개국 43 支部の JETAA の代表者が一堂に会する初の「国際総会」が、東京で開催された。この「国際総会」は、2005 年の名古屋・神戸総会まで続いた。

開催年	開催場所
2000 年	東京
2001 年	ロンドン
2002 年	バンクーバー
2004 年	ニューヨーク
2005 年	名古屋・神戸

JETAA 国際総会

開催年	開催場所
2004 年	ポートランド
2006 年	シドニー
2007 年	トロント
2008 年	パリ
2009 年	ジャマイカ
2010 年	エディンバラ
2011 年	東京

JETAA 国際委員会

その後は、会議の規模を縮小した「国際委員会」が、2011 年まで開催された。2012 年以降は、世界各国の JETAA が集う機会が一旦は途絶えたが、今年、クリアが実施する「JET プログラム里帰り事業」に 11 개국 12 人の JET 経験者 (うち、3 人はアメリカ・カナダ・イギリスの国代表) が参加し、東京に集まって議論を行った。

## フェイス・トゥ・フェイスの重要性

再び北米の動きに戻ると、2000 年以降、北米中心の「国際会議」が、全世界を対象とする「国際総会」へと移行したことに伴い、2000 年および 2001 年には「北米会議」が開催された。その後、カナダは 2001 年から、アメリカは 2002 年から、それぞれの国の JETAA 各支部が一堂に集まる会議を毎年開催するようになった。このような会議は、各支部のベスト・プラクティスを共有したり、メンバーリストの構築・管理の方法や、効果的なウェブサイトや SNS の使い方など、各支部が抱える共通の課題について、支部同士が情報交換・意見交換を行ったりする貴重な場である。

筆者は、これらのアメリカ、カナダの会議にすべて出席してきたが、どれだけインターネットが発達しても、JETAA の各支部がフェイス・トゥ・フェイスで向き合って、相互に刺激を与える機会は、JETAA の活動の発展に不可欠であると感じている。このため、今年、世界各国の JET 経験者が直接顔を合わせる機会が復活することで、そこから新たな展開が生まれることを大いに期待している。

## 日本を想う気持ち

東日本大震災で亡くなったモンゴメリ・ディクソンさん (陸前高田市 ALT) とテイラー・アンダーソンさん (石巻市 ALT) のこと。復興支援のために、全米の JETAA19 支部が一致結束して、9 万ドル (約 1,000 万円) 近い寄付金を集めたこと。そのような JETAA 各支部にまたがる活動を促進するため、JETAA の全米組織として USJETAA が設立されたこと。ここに書き尽くせない話は、後述の記事に譲ることとする。

最後に、JETAA の活動が、日本の自治体にとっても重要である理由をお伝えしたい。数か月前の話であるが、カリフォルニア州オークランド市から姉妹都市である福

岡市を訪問していた学生グループの様子が、日本のテレビ番組で紹介された。そのグループを引率していたのは、JETAA サンフランシスコ支部の JET 経験者であった。また、全米最大規模の旅行博であるニューヨーク・タイムズ・トラベルショーにおいて、東北地方の PR を手伝ってくれたのは、JETAA ニューヨーク支部の JET 経験者であった。

このように、近年、JETAA は、日本の地方への観光客の誘致や地元の特産品の輸出促進の取り組み、そして姉妹州・都市などの交流活動にも協力している。ここに

挙げたものは、ごく一部の例に過ぎないが、筆者が 16 年間変わらずに感じてきたことは、JETAA のメンバーに共通する、日本を想う気持ちである。そのような気持ちをもった 6 万人の JET 経験者の存在は、日本の自治体の国際化戦略にとって、何よりも価値があるのではないだろうか。

(注) 本稿は、当事務所の犬丸淳・上席調査役および丸野綾紗・所長補佐との共同作業によって執筆したものであることを付記しておきたい。

## 2

### 拡大する JETAA の活動 ～第二の故郷、日本のために～

JETAA アメリカ代表 Alexander Peterson (アレクサンダー・ピーターソン)

#### JETAA のアメリカにおける活動

この半年というものの、全米各地に拠点を置く 19 の JETAA 支部は、とても実り多いエキサイティングな日々を過ごしてきた (19 支部の詳細は表 1 参照)。ここでは、アメリカの JETAA の注目すべき取り組みについてご紹介したい。

多くの支部では、日本をテーマにしたイベントを開催している。6 月には、フロリダ支部がタンパ市に日本の「夏祭り」の雰囲気再現した。そこでは、おみくじなど 25 種類以上の日本の遊びを楽しむことができ、焼きそばから浴衣試着まで、何でも揃う屋台が 20 店以上軒を連ねた。また、合気道や剣術など、日本の伝統文化の実演も行われた。またアトランタ支部では、「アトランタ運動会」を開催した。参加者は、玉入れや綱引き、リレーといった日本ではおなじみの競技とともに、バーベキューで親睦を深めた。

さらに、今年は、支部の垣根を越えた交流もことのほか盛んである。ポートランド支部とシアトル支部は、それぞれの地元産品を持ち寄った「料理の鉄人」というイベントで交流を深め、サンフランシスコ支部とロサンゼルス支部は、「Bring Japan Home」(日本を故郷に持ち帰る)という JETAA のミッションをどう達成するのか、合宿形式で議論を重ねた。

一方で、各支部では、新たに日本に赴任する JET 参

加者への支援も行っている。シカゴ支部では、壮行会の開催を通じて、JET 経験者たちと交流することで、JET 参加者がアドバイスを受けることができる機会を設けている。また、ナッシュビル支部では、JET 参加者ごとに地元の JET 経験者を割り当て、親身になって支える「メンタープログラム」を実施している。そのほかの支部においても、それぞれの方法で JET 参加者をサポートしており、ここで挙げる活動は、各支部が JET 参加者のために行っている数限りない取り組みのうちの、ほんの

	支部名	都市名
1	DC	ワシントン DC
2	New York	ニューヨーク
3	New England	ボストン
4	Southeast	アトランタ
5	NOLA	ニューオーリンズ
6	Florida	フロリダ
7	Chicago	シカゴ
8	Heartland	カンサスシティ
9	Texoma	テキサス
10	Rockey Mountain	デンバー
11	Pacific Northwest	シアトル
12	Portland	ポートランド
13	Northern California	サンフランシスコ
14	Southern California	ロサンゼルス
15	Hawaii	ハワイ
16	Alaska	アラスカ
17	Greatlakes	グレートレイク
18	Minneapolis	ミネソタ
19	Music City	ナッシュビル

表 1 JETAA アメリカ支部一覧表

わずかな例に過ぎないということをわかっていただければ幸いです。

## USJETAA の設立

この夏、全米組織「USJETAA」が米国法令に基づく NPO 法人として設立されたことは、アメリカの JETAA にとって記念すべき、画期的な出来事となった。このプロジェクトは、日米交流財団の専務理事などを務める弁護士のパイジ・コッティンガム・ストリーター氏（元三重県 ALT、1988～1989 年）と、ローレル・ルカシャブスキー氏（元鹿児島県 ALT、1990～1992 年）によって 3 年前に発案されたものである。活動の詳細については、議論が進められているところであるが、各支部および各 JET 経験者に資する全米規模でのプログラムの実施を行いたいと考えており、そのための資金調達や全米規模での JET 経験者のデータベースの作成を進めているところである。また、ゲストを招いての講演会や人的交流プログラムの実施なども検討している。



「ボストンジャパンフェスティバル<sup>(注1)</sup>」での JETAA ブース

## 第二の故郷～日本への思い～

JET 経験者と日本とは、強い絆で永久に結ばれている。今年も、各支部は東日本大震災の被災地を支援するイベントを開催した。サンフランシスコ支部では、ウェズリー・ジュリアン氏（元宮城県 ALT、2008～2010 年）によるドキュメンタリー作品「東北友（Tohoku-Tomo）」<sup>(注2)</sup> の上映会を実施し、「テイラー・アンダーソン記念基金」<sup>(注3)</sup> に 5,000 ドルを寄附することができた。これらは、被災地での就学支援に直接あてられることになっている。

今年 11 月には、アメリカからサンフランシスコ支部代表のマーク・フレイ氏（元熊本県 ALT、2002～2006 年）とアメリカ代表である筆者自身が、「JET プログラム里帰り事業」に参加するために日本を訪れた。私たちはまず東京で、世界各地から集まった JET 経験者たちと、現在の JET プログラムに関する課題や JETAA の組織強化などについて意見を交わした後、JET プログラム参加当時の赴任地に戻り、元同僚や生徒、そして地域の人々との再会を果たした。私たちは今、アメリカ各地の JET 経験者コミュニティを通じて、同じ日本の地域に赴任していたほかの JET 経験者たちの物語を集めている。そうすることで、私たち 2 人が代表して、彼らの日本への親愛の情を日本の故郷に届けたいと考えている。

最後になったが、アメリカの JETAA の活動は今、とてつもない活気に満ちている。更に「USJETAA」の設立は、私たちの活動の幅を広げ、JETAA の前途を一層ポジティブなものにしている。私たちは、この組織の一員であることを非常にうれしく思うとともに、さらに未来に向けて、活動を続けていきたいと考えている。



Alexander Peterson (アレクサンダー・ピーターソン) 氏、元宮城県 ALT、2009～2012 年

注 1) 「ボストンジャパンフェスティバル」は、ボストンで開催される日本をテーマとした祭りである。今年度で 4 回目を迎え、来場者数は 3 万人を超える。

注 2) 「東北友（Tohoku-Tomo）」は、東日本大震災で被災した地域の復興のために奔走する外国人たちの活動を、インタビュー形式で紹介しているドキュメンタリー映画である。

注 3) 「テイラー・アンダーソン記念基金」は、東日本大震災で亡くなった、当時宮城県石巻市の ALT であったテイラー・アンダーソンさんの遺族が、アメリカと日本の架け橋になるという彼女の遺志を引き継ぎ、被災地の復興援助・支援を目的として設立したものである。

## JETAA ニューヨーク支部に迫る! ～会長・副会長へのインタビューを通して～

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 丸野 綾紗 (和歌山県派遣)

9月末にデトロイト市で開催された、JETAA アメリカ地域会議。この会議は、毎年1回行われるもので、アメリカ全19支部の代表者などが一堂に会し、各支部の活動報告やJET経験者が知りたい事柄について、情報交換や議論などが行われる。今回、当会議に参加していた、JETAA ニューヨーク支部(以下、「JETAANY」という)代表のパメラ・カバラム氏(元滋賀県ALT、2007年～2009年)および副会長のキャスリン・パイパー氏(元高知県ALT、2001年～2004年)の二人にインタビューを行った。活動が特に活発な支部であるJETAANYにおいて現在指揮を執る二人に、支部の活動内容や今後の目標、日本の地方自治体への想いまで、幅広く話を聞かせていただいた。

### JETプログラム、そしてJETAANYとの出会い

大学で友人からJETプログラムについて教えてもらい、日本に興味を持つようになったパメラ氏と、高校生のときに学校の交流プログラムで栃木県宇都宮市に留学した経験がJETプログラム応募へのきっかけとなったキャスリン氏。滋賀県と高知県でそれぞれ別時期にALTとして勤務した二人だが、帰国後、どちらもJETAANYが開催するイベントがきっかけでJETAANYに参加するようになったそうだ。今、二人は会長と副会長としてJETAANYの活動を支えているが、そのポジションに就くためには、積極的に活動に参加するだけでなく、選挙で選ばれる必要がある。選挙に関しては各支部の規約によって定められている。JETAANYの場合、役員が出席する年次総会における投票により会長や副会長などが決められており、4月から3月末までの1年間を任期とし、再選も認められている。二人もまたその過程を経て、今年4月から現在のポジションで活躍しているのである。

### JETAANYの活動

JETAANYでは、ほかの支部と同様に、日本文化を通じ



「ジャパン・デイ」のヨーヨーブースで日本を味わう人々

た交流イベントを数多く開催している。その中で、特にJETAANYといえばこれというイベントを挙げてもらった。

一つは、毎年5月にセントラルパークで開催される「ジャパン・デイ」だ。日本文化を紹介するこのイベントは、在ニューヨーク日本国総領事館や日系企業などにより開催されており、毎年5万人を超える参加者で賑わう。JETAANYは、全米最大の日米交流団体であるジャパンソサエティーと共同運営のヨーヨー釣りブースを出展している。当事務所スタッフもボランティアとして参加しているが、毎年、焼きそばやおにぎりといった日本食ブースと並ぶ、行列が絶えないブースの一つである。

また、「ジャパン・ア・マニア」というイベントがある。ビッグブラザーズ・ビッグシスターズオブニューヨークシティという、貧困などの逆境に苦しむ子供たちを支えるNPOと協力し、子供たちに、折り紙遊びや浴衣の着付け、書道、箸の使い方などの日本文化を体験させることを通じて、日本について学ぶ機会を提供している。日本に行ったことはない子供たちが、身近に日本を知ることができるという素晴らしい文化交流企画である。

### JETAANY 会長、副会長として

自分たちの職業とは別に、ボランティアで前述のような活動を行うJET経験者たち。その中でもとりわけ彼

女たちは、リーダーシップを発揮しなければならない立場であるわけだが、彼女たちはどのような目標を持って活動しているのだろうか。

パメラ氏は、3つの目標があると話す。1つは、JETAAに属していないJET経験者たちに対し、参加を促す方法を確立することである。10年以上前のJET参加者の時代は、今のようにフェイスブックなどを通じて所在が簡単に分かるような環境ではなかったため、連絡が取れなくなっているJET経験者が多い。これは、このインタビューを行ったJETAAアメリカ地域会議でも議題の一つとして取り上げられるほど全体的な課題ともなっているため、JETAA全米組織(USJETAA)を中心に、今後取り組まれていくことであろう。

そして、2つ目は、現役JET参加者との連絡体制の構築である。JETプログラムを終了し、帰国したJET参加者たちが、スムーズにJETAAの活動に参加できるよう、サポート体制を整えたいとのことである。

それから、3つ目の目標は、文化交流イベントを更に拡大していきたいというものである。これは、パメラ氏だけでなくキャスリン氏も同様に掲げている。JETプログラムに参加していた時代を懐かしく思うだけでなく、ニューヨークに住んでいても日本のことを学び続けたいというJET経験者たちが、自分も含めて大勢いる、だからそのような機会をもっと作りたいとのことだ。なるほど、文化交流イベントは、日本のことを知らない人が知るきっかけになるというだけではなく、既に日本について関心のある人が、更に知識を深める学びの場でもあるのだ。

## 日本の自治体へのメッセージ

JETAAの存在やその活動をあまり知らない日本の自治体は少なくないと思われるが、彼女たちは今、日本の自治体に対して何を伝えたいかを尋ねた。

「JETプログラムを通して私たちが日本に持ち込むもの、日本から持ち出すもの、それらが全て、日本で関わった人々と私たちの、その後の人生に多大な影響を与えるということ。そして自分たちのように、JETプログラムを終えた後も日本に関わっていたと思うJET経験者がたくさんいること。それを知ってほしい。」と話す二人。

JETプログラムの主たる目的は、交流である。ALTを例にとると、「英語を教える・教わる」という交流はもちろん重要な目的である。しかし、それだけではない。

私たちは、クラブ活動のサポート、地域のボランティア活動への従事、祭りやスポーツイベントへの参加など、それぞれ派遣された先でコミュニティの一員となるべく努力し、地域の人々もまた、私たちとの距離を縮めようと歩み寄ってくれるし、私たちからたくさんのことを学ぼうとする。そして互いに、数え切れないほど貴重で楽しい経験をする。また、母国へ帰国した後は、私たちがこうしているように、JETAAの一員として、日本を世界に発信する活動を行う。この文化交流が、JETプログラムの最も重要な目的だと考えている、二人はそう声を揃えた。

## 最後に

パメラ氏は、自らの経験を振り返り、さまざまな日本の有名観光地に行ったが、やはり一番は、ALTとして勤めた滋賀県の琵琶湖である、と力説してくれた。当事務所で勤務し始めて以降、筆者はJET経験者と接する機会が多いが、皆一様に、勤務した日本の地域をととても大切に思っている。その想いは、筆者の故郷を想うそれよりも強くとさえ感じることもあり、負けてはいられないと、自身の仕事に対する励みにもなっている。今後も、JETAA担当として、少しでも彼女たちの活躍を支えることができれば幸いである。



（左）パメラ・カバラム氏と（右）キャスリン・パイパー氏

JETAAUSA ホームページ

<http://www.jetausa.com/>

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 松浦 佳祐 (宮城県派遣)

2015年7月1日現在、カナダから499人がJET参加者として来日し、日本の各地で働いている。この数は、アメリカの2,695人に次いで世界第2位の数字である。JETプログラム事業が始まった1987年からの累計参加者数で見ても、アメリカ(約31,400人)、イギリス(約10,300人)に次ぐ約8,600人が同プログラムに参加しており、カナダは世界有数のJET参加者輩出国といえる。

カナダ出身のJET経験者の中には、各界の著名人もいる。例えば、カナダで最も栄誉ある文学賞「ギラー賞」を2012年10月30日に受賞したウィル・ファーガン氏(元熊本県ALT、1990～1993年)や、仙台在住のミュージシャンであり、東日本大震災の復興に向けたチャリティ・ライブ「Send 愛」などの活動を行っているMONKEY MAJIKのメイナード・プラント氏(元青森県ALT、1997～2000年)などが挙げられる。

## カナダのJETAA支部

カナダには、JETAA支部が7つあり(表1参照)、支部会員は、合計約3,000人である。会員数は、支部により、1,000人を超える大所帯もあれば、100人を切る小規模なものもあり、支部の規模により、活動の内容はさまざまである。

カナダでは毎年、JETAAカナダ地域会議が開催されている。同会議では、それぞれの支部における活動内容報告、支部の共通課題や今後の活動内容などについて議論されており、カナダのJETAA全支部の代表者たちが

	支部名	都市名
1	Ottawa	オタワ
2	Toronto	トロント
3	Quebec Atlantic	モントリオール
4	Manitoba/Saskatchewan	ウィニペグ
5	Northern Alberta	エドモントン
6	British Columbia/Yukon	バンクーバー
7	Southern Alberta	カルガリー

表1 カナダ各支部一覧

一堂に会する。今年、同会議は6月にオタワで開催されたが、アメリカの国代表2人も参加し、国を越えた事例紹介や意見交換が行われるなど、例年に増して活発に議論が行われた。そこで、同会議で発表された代表的な支部の活動内容について、紹介したい。

### ①オタワ夏祭りの開催

オタワ支部では、毎年日本文化を紹介する夏祭りを主催している。本年7月19日にオタワ市役所前で開催された同イベントでは、三味線演奏や民謡の披露、日本舞踊のパフォーマンスのほか、剣道や柔道などの実演も行われた。また、茶道の実演や折り紙体験、相撲大会なども好評を博した。オタワ支部では、わさびマヨネーズや海苔を使ったオリジナルのホットドッグである「JETAA ドッグ」を提供しており、これも参加者に大好評であった。

同イベントへの参加者は年々増加しており、今年度は、昨年度の参加者(約800人)を超える約1,000人の人々で賑わった。これは、一つのJETAA支部が始めたイベントが今や、カナダの首都における代表的な日本文化紹介イベントに発展したという、特筆すべき支部活動である。

### ②バンクーバー市と横浜市との姉妹都市交流

バンクーバー支部は、今年5月末から6月初旬にかけて行われた横浜市のドラゴンボート大会に参加した。これには、横浜市とバンクーバー市が、1965年から姉妹都市提携をしており、研修生派遣などの人的交流や情報交換などを行う姉妹港交流や、高校間における相互訪問や交流などを行う教育交流を通じ、親善関係を深めてきたという背景がある。今年は、その姉妹都市提携50周年の節目にあたるため、JETAAバンクーバー支部では、これを記念して、JET経験者を中心としたドラゴンボートのチームを結成した。大会への参加にあたっては、

横浜市の現役 CIR（国際交流員）をはじめとした各関係者と緊密に連絡を取り合った。5月31日の「横浜市長杯」サンデーチャレンジに出場した同チームは、惜しくも決勝進出はならなかったものの、第1部は全体の4位、第2部は全体の5位という活躍を見せ、当日の様子は、大会のFacebookページにて紹介された。これは、支部自らが計画し、企画を実現させたというだけでなく、母国カナダでのみならず、日本の地域とも繋がり日本国内にまで活動を広げたという点で、画期的な事例であろう。



バンクーバー支部のドラゴンボートチーム

## 今後の展開

先に述べた JETAA カナダ地域会議では、各支部の活動紹介のほか、アメリカの国代表も交え、会員情報を管理するデータベースの作成についての意見交換が行われた。現在ほどインターネットが発達していなかった JET プログラム事業初期における JET 経験者たちの現在の連絡先を、どのように把握するかが一つの大きな課題となるが、国レベルで会員情報をデータベース化することができれば、JETAA がより一層組織化されたものとなり、活動の幅が広がる可能性を秘めている。なお、この件については、今年8月アメリカで設立された全米組織 USJETAA でも議論されており、このような両国の取り組みを、当事務所としても支援していきたいと考えている。

また、同会議では、今後の JETAA カナダの支部活動における新たなアイデアも共有された。それは、複数の支部が共同で事業を行うというものである。先に述べた

ように、カナダには小規模の JETAA 支部が複数あり、支部によっては、単独で大きなイベントを行うことが難しいという現状がある。しかし、隣接した支部などが共同で事業を実施することで、集客の増加や運営の効率化が期待できる。さらに、同会議では、JET プログラム 30 周年記念事業を、アメリカ、カナダという枠にとらわれず、北米全体で開催する案が出された。また、昨年シアトルで行われたアメリカ地域会議には、バンクーバー支部から2人が参加するなど、既に国境を越えた支部同士の連携も始まっており、今後は、このような広域的な活動がさらに活発化していくものと思われる。

このように、彼らは、現状に留まることなく、JETAA 活動の更なる発展を求めて日々活動している。本稿が、先に紹介したような文化交流や友好交流などを通じて、JETAA カナダ支部が日加交流のパートナーとして活動していることを知るきっかけとなれば幸いである。



JETAA カナダ地域会議で発言する、カナダの国代表アレクシス・スベトロブスキー氏

### JETAA カナダ Facebook

<https://www.facebook.com/JETAACanada>



## JETAA UK : ネットワークの機会を活用し専門的に会員をサポート

JETAA UK 会長 Sarah Parsons (セーラ・パーソンズ)

JETAA UK は会員数 6,000 人を超え、管内ではロンドン、ミッドランズ、ノースウェスト、スコットランド／ノースイーストの各支部がそれぞれ活動を行っている。JETAA UK は、JET プログラム終了後の会員が、日本との間の草の根交流を維持し、英国内の日本コミュニティとの間に新たな絆を育むことをサポートすることを目的としている。JETAA UK では、独自の企画や日英の各機関、ビジネスとの関係づくりを通して、会員が専門、文化、教育、社会的な繋がりを維持したり生み出したりすることをサポートしている。

ロンドン、ミッドランズ、ノースウェスト、スコットランド／ノースイーストの JET 経験者のボランティアで構成する地域毎の委員会があり、それらをサポートする英国委員会もある。各支部では委員会が主体となり、日本語教室や文化実演、寿司づくりイベント、日本食レストランでの夕食会などの主催や、地方で開催される日本にちなんだ

祭りや英国で行われるネットワーキングイベントへの参加など、さまざまなイベントを実施している。



JETAA UK 委員会年間総会 (2015年2月、クリアロンドン事務所職員とともに)

### 専門的なネットワーク

JET 経験者の多くは日本との繋がりを仕事においても維持したいと考えているため、会員を専門的にサポートすることは重要な行動指針の一部となっている。また、年配の JET 経験者をもっと活動に引き込みたいと考えている。彼らの多くは日本と関連のある職に就いており、帰国後間もない JET 経験者に与えることのできる豊かな経験とアドバイスを持っているためである。

日本と関連した仕事に就いていない会員でさえ、交流を超えたより専門的な次元において日本との繋がりを維

持したいと考えており、JETAA UK では、これらを促進するために、Mitsubishi Corporation International (Europe) Plc、Teach First、Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd、Brother U.K. Ltd などの機関と一緒にネットワーキングイベントを実施している。今年は、スコットランド議会において超党派グループとともに日本に関するイベントも開催し、地元大学や自治体から多くの代表者の参加を得た。



「Japan in the East Midlands」ネットワーキングイベントに参加した、ノッティンガム大学、JETAA UK、Aisin Europe Manufacturing (UK) Ltd、Koito Europe Ltd、Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd のスピーカー達 (2015年2月)

メインとなるキャリアイベントは、「JETAA Careers Forum」(以下、キャリアフォーラム) で、毎年9月、JET プログラム帰国者レセプションの前にロンドンで開催している。このイベントは、JET 経験者同士の意見交換であり、さまざまな産業、分野で働いている JET 経験者が、帰国後間もない JET 経験者に対して、彼らが英国に戻ってきた時に直面するさまざまな課題について話をすることを特徴としている。JET 経験者が帰国後にビジネスの世界に入っていくのは極めてチャレンジングなことである。彼らの多くにとっては、逆カルチャーショックに直面し、日本や、JET プログラム参加当時の生活を恋しく感じ、英国での生活に戻ることに困難を感じているためである。また、日本と関連のある仕事に就きたいと考えているものの、英国の求人市場や手に入れられる機会、さらに必要となりうるスキルなどについて

十分に理解できていないケースもある。キャリアフォーラムにおいては、現在の職業を獲得できた JET 経験者から受けられる刺激とともにそうした情報についても提供したいと考えている。

## 2015 年 JETAA UK Careers Forum

今年のキャリアフォーラムには、2015 年帰国の JET 経験者の約半数が参加し、各機関※で活躍する 24 人のスピーカーを招待した。

「面接スキル」、「日本との関係維持」、「ネットワーキング」、「ソーシャルメディアの活用」、「英国の求人市場」、「英国の日系機関での就労」、「他分野での JET 経験の活用」などのトピックを含んだパネルディスカッションに加え、「高等教育と調査研究」、「外務・英連邦省への就労」、「旅行業界への就労」、「コンサルタント業の設立」、「JETAA UK との関係維持」といった分野ごとのセッションも実施した。さらに今年は、新しい試みとして「CV クリニック」を実施、3 人のキャリアコンサルタントを招待し、参加者が作成した CV（履歴書）を専門家の視点で見てもらい、指導を受けられる機会を提供した。



キャリアフォーラムに参加した、The Japan Society、Deloitte Touche Tohmatsu Limited、外務・英連邦省、Inside Asia Tours のパネリスト達（2015 年 9 月）

## アドバイス

パネリストから 2015 年帰国の JET 経験者に寄せられたアドバイスで強調されていたのは、今が日本と英国との関係づくりの良い機会だということだった。今後日本においては、英国の各機関やビジネスが関係する数多くのイベントが行われることが予想されているほか、多数の日本企業が英国に投資を実施中で日英双方の旅行者

の数も増えてきているなど、JET プログラムで得たスキルを専門的な意味で活用する機会が多くあるということだ。パネリスト達はまた、JET プログラムで得た経験は、キャリア形成において最も重要な要素の一つであり、また、JET プログラムへの参加によって、「教える」こと以外に獲得した数多くのスキルを雇用者側に正しく売り込むことが重要だと述べた。これらのスキルの中には、日本語能力だけではなく、日本で生活するという草の根的な知識、日本の価値観、生活様式への理解、コミュニケーションや礼儀作法、新しい概念を説明する能力や、物事の実施に当たり異なった方法を採用することなども含まれている。パネリスト達はまた、これらのスキルを面接場面でどう使うか、ネットワーキングの機会やソーシャルメディアをどのように効果的に活用するか、仕事の中で成功していくためにいかに資格や新しいスキルを身につけることが重要だったかについても議論を行った。日系企業で働いているパネリスト達の中には、日本での労働についての彼らの知識が面接や文化間の相互理解においていかに役に立ったかについても述べていた。

## 参加者の反応

2015 年帰国の JET 経験者からはたくさんの好意的な反応を得ることができた。参加者はまた、幅広い部門から参加し、さまざまな経験を持っている興味深いパネリスト達と出会ったことで得られた刺激についてもコメントをした。キャリアフォーラムは JET 経験者同士を結び付ける有効な場であり、このイベントの実施によって、特に JET プログラムという人生を大きく変える経験から戻ってきたばかりのフラストレーションを感じる時期に、利用できる支援ネットワークの存在を知るきっかけとなったようである。

※ Mitsubishi Corporation International (Europe) Plc、Mitsui & Co. Ltd、Toyota Motor Manufacturing (UK) Ltd、KDDI Europe Ltd、日本貿易振興機構、国際交流基金、Nomura Holdings, Inc、3HR Plc、The Japan Society、Japan in Perspective、Robert Walters Plc、Deloitte Touche Tohmatsu Limited、YF Marketing、シェフィールド大学、Inside Asia Tours、外務・英連邦省、JETAA 各支部代表ら

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 小池 智広 (総務省派遣)

シドニー事務所が担当するオーストラリアとニュージーランドには8支部(オーストラリア5支部(各支部合計会員数約1,700人)、ニュージーランド3支部(各支部合計会員数約1,000人))がある。各支部は、JET参加者としての経験を語るなどのJETプログラムの広報活動を行うだけでなく、日本の文化を紹介し、姉妹都市交流を始めとする日本の地方自治体や地域との交流事業にも積極的に関わっており、JETプログラム、ひいては姉妹都市交流にも欠かせない組織になっている。

本稿では、JETAA支部の主な活動やシドニー事務所のサポートについて紹介する。

## オセアニア JETAA 支部の主な活動

### (1) 「キャンベラ・奈良キャンドルフェスティバル」でのJETAAによる日本食PR

オーストラリアの首都であるキャンベラで毎年10月下旬に開催される「キャンベラ・奈良キャンドルフェスティバル」にJETAAキャンベラ支部がブースを出展し、キャンベラと姉妹都市である奈良市とのこの交流イベントで積極的に日本の魅力発信を行っている。

2015年10月24日に開催された今年のイベントでは、日本で親しまれている「焼きぎょうざ」をビールと



「キャンベラ・奈良キャンドルフェスティバル」で日本食をPRするJETAAキャンベラ支部のブース

ともに提供し、買い求める人たちが長い列を作っていた。在豪日本人にとっては懐かしい味、オーストラリア人にとっては日本の味を経験してもらう機会を通じて、日本食を始めとする日本に関心を持つきっかけづくりを行っている。

### (2) 「ビッグ弁当ランチ」を通じた東日本大震災へのチャリティーイベント

オーストラリア第2の都市であるメルボルンにおいて、2012年からJETAAビクトリア/タスマニア/南オーストラリア支部が、東日本大震災へのチャリティーイベントとして、「ビッグ弁当ランチ」を始めた。このイベントはJETAAが賛同者を募集し、その賛同者が用意した日本風の弁当を仲間と一緒に食べ、その代金の一部を寄付金にあてるものである。集まった寄付金は被災した幼稚園や小学校などへの支援に使われている。

2015年5月に開催された今年のイベントでは、2,400オーストラリアドル(日本円約200,000円:2015年10月時点レート)が寄付された。イベントに参加したJETAAメンバーの中にはJET参加時の任用団体が東北地方であった人もおり、このイベントを通じて少しでも被災地の復興に役立つことができればとの思いを持って活動を継続させたいとのことであった。



「ビッグ弁当ランチ」に協力した学生たち

### (3) 「堺市・ウェリントン姉妹都市提携 20 周年記念日本祭り」を盛り上げる JETAA

ニュージーランドの首都であるウェリントンで 2014 年 8 月 23 日に同市と姉妹都市である堺市との友好締結 20 周年記念事業が開催された。ここでは、JETAA ウェリントン支部が日本文化を紹介するという観点から作成した高さ約 11m、横約 9m の大きな着物が会場に飾られ、多くの来訪者の注目を浴びていた。この着物は、堺市とウェリントン市を始めとする日本とニュージーランドの小中高生などによって生地描かれた大きな絵をつなぎ合わせたものである。生地をつなぎ合わせるということはお互いの友好関係も確固につなぐという意味も兼ねているようで、JETAA のユーモアあふれる演出が見られるイベントであった。

### (4) 「JETAA オセアニア会議」で JETAA 間の連携も強化

JETAA 間の交流を深めるとともに横の連携強化を図るため、年に 1 回、オセアニアにある JETAA8 支部が一堂に会する JETAA オセアニア会議が開催されている。会議ではそれぞれの支部の活動を報告しながら、JET プ



「堺市・ウェリントン姉妹都市提携 20 周年記念日本祭り」で展示された大きな着物

ログラムの広報活動や日本の地方自治体や地域との交流事業への参加などについて、積極的な意見交換を行っている。会議を通じて、JETAA が互いの活動を支えあいながら、元 JET 参加者としての観点からの更なる JET プログラムの向上や日本との交流事業の促進などに向けた活動に結びついている。

シドニー事務所もこの会議には毎年参加している。今年度の会議は、2015 年 10 月にニュージーランドの南島で活動を行っている JETAA サウスアイランド支部の主催でニュージーランド南島のクライストチャーチにて開催された。会議の中では、「各組織との連携」をテーマに最近の JET プログラムに関する動きなどについての説明を行い、JET プログラム 30 周年記念への取組についても意見交換を行っている。

## シドニー事務所のサポート

シドニー事務所は、各 JETAA の自主的な活動を支えるため、JETAA からの相談に基づいて、日本と両国の自治体との連絡調整、各会議への参加などの支援を行っている。また、特に事務所の所在地であるシドニーを拠点とする JETAA ニューサウスウェールズ支部については、多くのイベントへの参加に加えて、会員間の親睦を深めるための会合にも招かれているところである。

また、JETAA 入会促進のための JET 帰国者の情報や新規 JET 参加者数などの JET プログラムに関する最近のトピックスの提供も随時行っている。

## おわりに

シドニー事務所としては、JETAA の日々の活動に感謝するとともに、日本の良き理解者としての役割に引き続き期待している。しかし、われわれが JETAA に期待していることに対する効果を生み出すためには、JETAA の活動する機会を増やさなければならないと考える。シドニー事務所としてもより多くの活動の場を作るよう努めているところではあるが、ぜひ、読者である自治体の皆さんも当事務所への活動支援依頼の際には、JETAA との連携についても依頼事項に含めていただき、JETAA と自治体と一緒に活動を行って、日本とオーストラリア、ニュージーランド間の友好を更に深化させていければこの上ない喜びである。

## JET プログラム拡大方針と クレアの役割

2014年9月、JET プログラムを所管する総務省・外務省・文部科学省は、現在、4,400人程度のALT（外国語指導助手）の数を、2019年度までに6,400人以上に拡大する方針を通知した。この背景には、小学校における英語教育実施学年の早期化の動きや、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催がある。

このALT6,400人という目標は、現在のALTの約1.5倍であり、これまでのピーク時（2002年）の参加者数6,273人（CIRなどを含む。）をも上回るものである。現在のALTの質を維持して、採用人数を拡大するためには、これまで以上の応募者を確保していく必要がある。しかし、特にアメリカにおいては、近年の景気回復に伴い、応募者が減少傾向にあり、在米日本国大使館では強い危機感を抱いていると聞く。

JET プログラム参加者の募集や採用は、世界各地の在外公館に依拠しているが、ALTについては、2015年7月現在で、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアの4か国からの参加者が、全体の約8割を占めており、これらの国に所在するクレア海外事務所の貢献の余地は小さくないはずである。引き続き、JET プログラムに参加する優秀な人材を確保するための一助となることは、日本の地方自治体の共同組織であるクレアの役割に相応しいものと考えている。

## JET プログラム運営における JETAA の意義

JET プログラムは、世界各国の青年たちが海外から日本へ、日本から海外へと往復する人的交流プログラムである。日本においては、現役のJET参加者ばかりに目が行きがちであるが、帰国したJET経験者たちが母国で活躍することは、新たなJET参加者をリクルートする上で、極めて重要である。これは、大学が新生を募集する際における、卒業生の就職実績と同じように重要である。

JET経験者が帰国後に、日本での経験を生かして社会で活躍するための環境整備をサポートしてきたのが、全世界に52支部あるJETAAである。現在、JETプログラムが世界最大級の人的交流プログラムとして評価されているのは、これまでの個々のJET経験者の努力に加え、彼らをサポートしてきたJETAAの存在が大きい。

今後も、優秀な人材を日本に送り込むためには、母国へ帰国したJET経験者たちや新たに日本に赴任するJET参加者をサポートするJETAAの存在が不可欠である。

## JETAA に対するクレアの支援

クレアでは、JETAA各支部における日本と各国をつなぐ活動などを積極的に支援している。前述の各記事において紹介されていた日本文化に関するイベントやJET参加者に対する日本への出発前および帰国後の支援イベントの多くは、クレアからの助成金を活用して行われている。

帰国後の支援イベントの一つとして、ニューヨークでは、JETAAニューヨーク支部、総領事館および当事務所の共催により、帰国直後のJET経験者などを対象とするキャリアフォーラムを毎年実施している。今年度は新たに、ロサンゼルスにおいて、JETAAロサンゼルス支部、総領事館および民間人材紹介会社と連携したキャリアフォーラムを実施する予定である。

このように、当事務所では、JETAAにおける日米・日加の交流活動への支援に加え、JET経験者の就職支援も行うことで、彼らのJETプログラム終了後の人生にも関わっていきたいと考えている。

## 東日本大震災における JETAA の尽力

当事務所がJET経験者の人生に関わっていきたいと考えるのと同様に、JET経験者たちもまた、JETプログラム終了後もなお日本と関わりを持ち続けたいと考えているということも知っていただきたい。

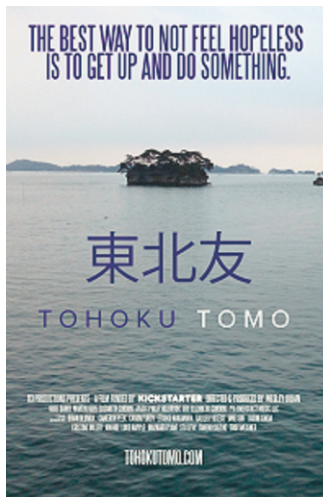
2011年3月11日。この日は、JETAAのメンバーたちにとっても、特別な日となった。東日本大震災の当

日から、アメリカの JETAA で募金活動を開催しようという声が挙がり、全米プロジェクトチームが結成された。彼らは、寄付金控除（税制上の優遇措置）を受けることができる NPO 法人である JETAA ニューヨーク支部を窓口としてファンド・レイジングを行い、合計で 9 万ドル（約 1,000 万円）近い寄付金を集めることができた。これは、アメリカの JETAA 設立以来、全支部が一致結束して実施した初めてのプロジェクトとなった。

これらの寄付金は、震災によって亡くなられた二人の JET 参加者、モンゴメリ・ディクソンさん（当時陸前高田市 ALT）とテイラー・アンダーソンさん（当時石巻市 ALT）の勤務地であった陸前高田市と石巻市の NPO 団体に寄付された。ちなみに、2011 年に東京で開催された JETAA 国際委員会に参加したメンバーは、会議終了後に陸前高田市へ赴き、ボランティア活動を行っている。

JETAA シカゴ支部の代表であるウェズリー・ジュリアン氏（元宮城県 ALT）は、日本において震災ボランティアに参加した外国人らの様子を「Tohoku Tomo（東北友）」というドキュメンタリー映画にまとめた。2014 年 3 月には、当事務所を含め、全米各地で上映会が開催された。このような活動も、広い意味での復興支援である。

困ったときに手を差し伸べてくれるのが本当の友人であると言われるが、JET プログラムを通じて、全世界に 6 万人以上の友人を持ったことは、日本の地方自治体にとっての良き財産に違いない。



「Tohoku Tomo(東北友)」のポスター

## JETAA 全米組織(USJETAA)の設立

今夏、JETAA の全米組織として、USJETAA が設立された。これは、東日本大震災における募金活動が一つの契機となったものである。

USJETAA は、寄付金控除を受けることができる NPO 法人であり、専属の事務局職員が配置される。米国に 19 ある JETAA 支部は、すべてボランティアで運



### 「USJETAA」のロゴマーク

営されており、かつ、それぞれの管轄地域が限定されているため、例えばアメリカ国務省や日米交流財団、米日カウンシルなどの関係機関が、JETAA と連携したプロジェクトを実施しようとしても、カウンターパートとなる組織がないことが課題となっていた。USJETAA は、このような課題に対応する組織であり、今後、JET 経験者の就職支援や、JETAA 各支部の活動支援、JET プログラムのブランド力向上などに取り組む予定である。

USJETAA は、まだ生まれたての小さな団体であるが、今後、同団体が JET プログラムとともに発展し、当事務所のパートナーとして、ともに JETAA をサポートしていくことを大いに期待しているところである。

## JET プログラム 30 周年に向けて

1987 年に創設された JET プログラムは、近く 30 周年を迎える。JET プログラム拡大の方針が示されている中、プログラムの存在を内外にアピールする絶好の機会である。海外においてプログラムの PR を担う主役は、卒業生たる JET 経験者であり、JETAA であるべきだと考えている。来たる 30 周年の PR 方法を彼らとともに考え、益々のプログラム発展に貢献するため、クレア海外事務所も、在外公館と連携・協力して、全力を挙げて JETAA の活動を支援していきたい。



### JET プログラム 30 周年記念ロゴマーク